

水を利用した畑地農業の新展開 - 畑地かんがい効果の検証と推進 -

道営畑地かんがい推進モデルほ場設置事業 芦別北部地区 受託研究事業:事業実施機関 空知支庁北部耕地出張所

芦別北部地区の概要

芦別北部地区は丘陵地帯で、稲作を主体に畑作・野菜作・ハウス栽培が展開されており、そのなかでゆりね・豆類・かぼちゃ・馬鈴しょ・小麦など多種多様な作物が栽培されています。地域の気象は内陸性のため畑作に適していますが、5月から7月の降水量は少なく、地域の水源は素堀の皿溜(小規模な個別のため池)や地下水に依存していることから、特に干ばつ年の用水確保には多大な労力を要しています。

芦別北部地区の受益地域である芦別市新城町に、畑地かんがい推進のためのモデルほ場を設置し(平成11年~15年)、実際の利用に役立つデータ収集のための調査を実施しました。

具体的には、土壌水分が指標となる値でかん水を行う試験区を設定し、土壌調査・土壌水分調査・収量調査(収量・品質)・気象調査などを実施することで、地域に適したかん水資材・かんがい強度(かん水量)・かん水のタイミングを検討し、普及のための「かん水の手引き書」を作成しました。

調査結果では、ユリ(ユリ根・花ユリ)でかん水効果が実証され、モデル農家の皆さんも小麦、カボチャなどの作物に対しかん水の必要性を実感されました。

芦別北部地区 調査ほ場位置と導入かん水資材

